

## 会 議 録

会議名 ( 付 属 機 関 等 名 )	令和 2 年度第 37 回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事 務 局 ( 担 当 課 )	総合政策部 参画協働課		
開 催 日 時	令和 3 年 3 月 17 日(水) 午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分		
開 催 場 所	川西市役所 4 階 庁議室 ( ウェブ会議システムにより開催 )		
出 席 者	委 員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、横谷弘務、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、延命寺陽子、田中真、田中真優、中村佳子、名木田絢子、堀田大樹、三善知子、吉尾豊、赤木牧子、金剛丸朋子	
	そ の 他	市長	
	事 務 局	総合政策部長、総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任 2 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する 提言について A 部会 ( ひらいてむすんで ) からの提言 B 部会 ( とりあえずポップコーン部会 ) からの提言</li> <li>3 市長あいさつ</li> <li>4 閉 会</li> </ol>		

19:00~

## 1 開 会

事務局により進行。

事務局紹介。

岩崎会長により進行。

## 2 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する提言について

『ひらいてむすんで』A部会の提言

部会長あいさつ

私どもの部会は、今日欠席される方もいるということで事前に録画いたしました。提言の録画が事前にできていますのでそれを聞いていただくこととなります。それでは始めます。

### 【事前録画の報告】

#### 1.現状と把握

- ・現状は、地域活動の組織が高齢化しており、固定化、マンネリ化して新しい人の意見が受け入れられないので、関わる余地がない。
- ・課題は、若い世代を巻き込むような活動の基盤をつくり、『ちょっと試しにやってみる』活動の基盤をつくるため、組織に風穴をあける勇気が必要。

#### 2.解決のための待ッティングカードづくり

- ・自治体・コミュニティ・市民活動団体が『どんな活動をしているのか知るきっかけ』として、待ッティングカードを作成する。
- ・まずはカードを手にとってもらうことが大切だと思う
- ・カードの表面には『どのような人にきてほしいのか』という、ターゲットとなる人

の具体的な人物像やその人の気持ち、裏面にはアドバイスや団体PRを記載してもらう。

- ・地域・人材の新たな魅力を再発見できる。また、現状の問題点が洗い出しされ、地域課題を振り返る「きっかけ」となる。

- ・カード作成の過程での活動内容の見直しや、絡まった思いをほどいてゆくので、カードづくりをしている団体の満足度が高い。

- ・A部会名『ひらいてむすんで』は、カードづくりを通して、募集团体内の思いや絡まりをほぐして開いてゆき、その後にターゲットと手を結べるようにと考えて名付けた。できたカードで興味のある人を誘うことが目的であるが、実際にカードづくりをやってみると、カードづくりを行った人や団体も活性化させる効果があることがわかった。

### 3.実践のための工夫

#### 二次元コードの活用

- ・二次元コードを使用すれば、情報や団体のホームページに気軽にアクセスできるようになる。

- ・カードに掲載しきれない情報とは、活動者のインタビュー動画、活動している動画など実際にどんな人が活動しているのかを知ることで参加しやすくなる。

- ・スマホのアプリやWEBサイトなどで簡単に作成できるので便利。

#### カードづくりの展開

- ・『活動の継続や人材不足にお困りの団体さん必見』や、『こんないい方法ありますよ』など、まずカードづくりを知ってもらうことから色々な媒体を使う。

#### 継続のしかけのための様式

数珠繋ぎのように、カードづくりに取り組んだ団体が、次の団体のお手伝いをする。

複数団体参加による合同開催で、他団体の良さや違いを体感してもらい、互いにファシリテーションしあいながらカードづくりを進行できるようにする。

## カードの活用方法

- ・イベントでの配布、市の広報誌に掲載、施設の掲示板に貼ったり、設置してもらう。

### 対象に応じたカードの設置場所の検討

- ・市役所や公民館などの公共施設を主体に、他には団体の近い地域での公共施設に設置する。
- ・地域貢献に興味のある民間施設には、市の後援名義などにより設置させてもらう。

## 4. 今後のために

- ・『待TINGカードづくり』を、コミュニティ、市民活動の力を増進する市主催の研修に取り入れて頂きたい。活動団体の人材不足など、組織運営に危機感を抱く団体にマッチしており、その効果はワークショップを経験してみればわかる。市民の発想から生まれた『待TINGカード』は、市の『宝物』として多いに活用すべきである。

### ○岩崎会長

『ひらいてむすんで』A部会の報告でありました。それでは、越田市長から、提言内容について、ご質問あるいはコメントをいただきたいと思いますのでお願いします。

### ○越田市長

はい、部会の皆さん本当にありがとうございます。

問題意識は、A部会の皆さんと共有させていただいていると思います。

いろんな団体の皆さんが、口をそろえておっしゃるのは担い手不足です。一方で、移住された地域の方と接すると、地域の方がどのような活動をしているかわからないというお声を聞きます。やはり既存の人たちがいる中で、なかなか既存のところに入っていけないということが、『新しく新規参入する側の気持ちの障壁になっている』と共通の問題意識と思っています。我々も『施策として人材マッチング制度をどうやってつくっていかうか』ということで、行政ではコロナ渦でのその議論がとまっていたのですが、『行政が頼りにならないほど、市民が自主的に元気に動ける』と、そんな状

況であって、今まさに新しいツールをご提案いただいたように思っています。

#### A部会 質疑応答

##### ○越田市長

ワークショップに参加して新しく作るプロセスも含めては、我々行政が作るとマッチング制度だけ作って終わっていたと思います。やっぱり実際に皆さん方にご参加をいただいて、賄ってこう思ったところです。

まずお聞きしたいのが、『私こんな人です、こういうことやりたいんです』という人と、それぞれの地域とか団体の人で、『こういう人欲しかった』という思いがあると思います。『やりたい人』と『やって欲しい人』のギャップをどのようにして埋めるんだろうかというところをお聞かせいただきたい。

また、各種団体の地域課題として、担い手不足があります。一方、新しく移住してきた方と接すると、地域の方がどのような活動をしているかわからないという声が聞こえます。ワークショップの場所に、新しい人、新規参入させることをどのように図っていこうと思われませんか。

#### 新しい人、新規参入させる方法について

##### ○委員

- ・新しい人が参加したいと思ってもらえるようなイベントの企画を検討します。

##### ○委員

新しい人への配慮というのは、市のバックアップが必要だと思います。会議の中でも、市の後援名義があれば、市民の信頼が得られて参加してもらいやすいという意見が出ました。

#### 『やりたい人』と『やって欲しい人』のミスマッチについて

##### ○委員

募集したけれども、マッチングしない人が来るとか、来ては困るとかそういう状況

じゃなくて、1人でも多くの担い手さんがどうやって、地域で活躍してもらえるのかというのが一番大事なところで、とにかく新しい人に出てきて欲しいというのが率直な気持ちであります。

#### ○委員

A部会では、『(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには』というテーマから、そのやり方そのものが、マッチングするかどうかというところにすごく配慮した内容になります。いきなりうまくいくというよりは、『信頼関係を結んでから次のステップに進む』というイメージです。このカードづくりを通し、『悩んでる人の気持ちに寄り添ってちょっと一歩踏み出していただく』ことがとても重要なのかなと思います。

#### の質問について

#### ○委員

解決方法が、ワークショップをしている中で見えてきました。まずその団体の正体がわからない状態では参加しにくいのではという意見があり、自己紹介のYouTubeの動画作成を考案しました。団体の概要である、欲しい人材やその団体の活動、所属している人など、具体的に見えてくるので、『新しい人は入りやすいだろう』と考えます。

#### ○岩崎会長

市長、今までのお話を聞かれて何かございますか。

#### ○越田市長

動画で団体を紹介するという提案については、ミスマッチの一つに、団体に入ってから後悔することが大きな要素であると考えますので、『動画作成をしてください』

と団体に丸投げするわけにはいかないと思います。今後は、そのサポートの方法も課題の一つであり、地域にはそういうことが得意な皆さんがいるので、動画を作成してくれる人の募集が第一段階なのではと思いました。

また、『募集したけれども、マッチングしない人が来るとか、来ては困るとかそういう状況じゃない』という意見については、確かに活動団体において、任意のNPO等であれば、目的が明確なのでやりたい人を募集しやすいと思います。しかし、地域のコミュニティでは、皆さんを尊重することが前提にあって希望するのは難しいと思うので、このマッチングカードでの成功事例がいくつかあると、小さくスタートしたものが大きく育っていくというイメージが浮かびました。

そして、団体の後援については、市民活動団体を市が認定するのは難しい問題と思いますが、皆さん、登録方法については、一定の基準を設けるなどのお考えがありませんでしょうか。

#### ○委員

そういう懸念を払拭するために、A部会のメンバーが付き添って、市でワークショップを開催してはどうでしょうか。コミュニティ組織の方々と市でカード作りをしているワークショップを見れば、『このマッチングカードは素晴らしい、各組織で使いましょう』という市長は太鼓判が押せて、それを市がオーソライズ(正当と認める)するという形式で認めるというやり方もあるのではないかと思います。

#### ○岩崎会長

ありがとうございました。A部会のご報告についての質疑応答は、ここまでにさせていただきます。

それでは、B部会『とりあえずポップコーン部会』からのご説明よろしくお願ひします。

## 『とりあえずポップコーン部会』B部会の提言

### 田中先生のあいさつ

部会名は『とりあえずポップコーン部会』です。由来は、川西市内の若手のメンバーが、ポップコーンのようにはじけつつも、主体的に個性や能力を発揮しながら一丸となってゴールを目指す要素があることから名付けました。また、テーマは『やる気や興味関心が薄い方を巻き込んでいくためにはどうしたらいいか』であり、部会メンバーによる成果の提言を今から皆さんにお聞きいただきたいと思います。

### 提言書

#### 1. 心得5箇条

・ 目的は専門家や市の職員の方がみるものではなく、実際に市民活動している現場の人が手軽に持ってもらえるように工夫した。

#### 要はコレだ！心得5か条

興味を持たせるよう工夫すること

地元川西市を知ってもらう工夫をすること

“とりあえず”で失敗を恐れず動いてみることに

“集まらない”ではなく“参加できない”理由から考える

ネットを取り入れて非接触でも人との関わりを持てるように努めること

#### 2. チラシの工夫

・ 見てもらうことを優先し、チラシには情報を詰め込まず目を引くデザインにした。

・ 目につく場所、かばんの中や部屋の片隅に置いてもらえるように意識した。

・ 市のLINEの会話を真ん中に入れており、普段から見慣れた、何となく読んでしまうようなイメージ。

・ トリカワカードの詳細は、二次元コードを使用する。

### 3. トリカワカードが出来た背景の説明

- ・まず最初に市民活動者の行動指針を作成した
- ・詳細については、別紙の行動指針とコミュニティ、ディベロップメント参照。
- ・次に、具体的なツールを検討。
- ・アマガサキ・トゥ・ザ・フィーチャーというツールを参考にしたらどうかという意見があり、事務局に取り寄せてもらってB部会でプレイした。
- ・プレイ後、満場一致で『これ面白い』となり、川西版のトリカワカードを作成した。

### 4. トリカワカードのやり方

こうして生まれましたトリカワカード

カードの説明

詳細は資料参照

正式名称『とりあえず川西でカケルカード』トリアエズカワニシカケルカード

背景や目的

- ・活動者は同じ悩みや困りごとがあって、人材やアイデアが欲しい。
- ・川西のリソースの見える化とブレイクスルーを実現。
- ・普及プロセスにおいて参画と協働を目指す。

ゲームを選択したポイント

- ・楽しくゲームを使用することで繋がりづくりができる。
- ・多人数で気づきが得られる。
- ・初めての方でも安心して自由に発言しやすい雰囲気になる。
- ・初めての方の自由な意見は、今まで思いつかなかったことの発見や、ブレイクスルーに繋がる。
- ・ゲームを通して発言することで、自分も『発信してよい』という自信に繋がる。
- ・今まで全く興味がなかった人、参加するつもりじゃなかった人に対して、『入るきっかけ』になる。

### 白紙カードの特徴

- ・カードを未完成の状態で作成することが大切である。
- ・団体のすぐ近くにいる人達が自分たちの宝を発見し、それが悩みに対する答えになるような形で、それぞれの組織ごとに作り上げていける。
- ・未完成なカードは、どんどん活用することで成長する可能性がある。
- ・中途半端にカードを作ることで、参加者がお客さんにならずに自分も関わる側にならない状態になる。

### ルール説明

代表者が「お悩みカード」から1枚ひいて、みんなに共有する

プレイヤーは手持ちの「リソースカード」を複数枚使って、解答案を検討。「カケルカード」から1枚頭の中で選択して、解答案に使用する

全員が順番に思いついた解答案を披露

全員の発表が終われば、いいねカード2枚を「良い・好き」と感じた解答案に渡す

『手元に集まった「いいねカード」の数』×『使用した「リソースカード」の数』  
×『「カケルカード」記載の点数を算出』

合計点数の一番高い人が勝つ

### 今後の展開や課題について

- ・尼崎の学校では始まっていて、実現可能なら様々な場面で使用する。
- ・私企業にトリカワカードを売り込み、協働で普及を図る。
- ・企業側のメリットは、カードに企業名を入れられることである。
- ・カードゲーム店、ボルダリング店など、違う目的で人が集まっている場所で実施、または設置する。
- ・子ども版(子ども版は、漢字が少なく興味・関心のあるものを考案)や大人版等や対象者別にトリカワカードを作成する。

- ・リソースカードに企業、民間団体、NPO団体も入れる。
- ・ルールやワークショップ風景をYouTubeで発信する。
- ・Zoomやアプリなどを活用して、誰でも場所を選ばずプレイできるようにダウンロード可能にする。
- ・自然と集まるカフェのようなおしゃれな雰囲気で作る。
- ・川西ボードゲーム会と協働する。
- ・トリカワカード活動グループを作り、実働で普及・啓発できるようにする
- ・実際、尼崎では大会があり、川西でもトリカワ大会を開催する。
- ・子どもとお年寄りのコミュニケーションツールになる。
- ・他市にも普及させて、SNS上で課題の共有をするとみんなで解決できると思う。

今後の課題については以下のとおり

- ・カードを楽しんだ後にどのように次のステップにつなげるか
- ・ゲームで出たアイデアをどのように活かしていくのか
- ・カードを通してどのようにひろげていくのか

#### まとめ

この2年間、田中部会長を中心に、とても良い意見交換を経てこの提言書になった。尼崎市のカードを参考にして、川西版トリカワカードに作り上げたということは、B部会の功績であったと思う。これから多くの市民の皆さんの参加をいただいて、事業の振興に結びつけたい。

#### 補足の意見

提言書はまとめましたが、3月で委員の活動が終了するにあたり、その後カードをどのように展開できるのかと思ったときに、仕掛けが必要なのではないかとということがあって、じゃあ、『聞いてみよう』と思いまして、尼崎のカードづくりに携わった方に連絡を取れる機会ができました。これからは尼崎に相談しながらカードは『中途半

端をよし』として、実践的に展開する方向でいきたいと思います。

○岩崎会長

はい、ありがとうございました。提言の内容を説明していただきましたが、このカードのについての感想をお聞かせいただけますか。

B 部会 質疑応答

○越田市長

全体的に多岐にわたって深い議論をしたということが、この報告書からにじみ出ています。本当にありがとうございます。いくつかご示唆をいただいたと思っています。活動は、完成したところで呼びかけると難しいのではと思います。跡継ぎを呼びかけると、前任者と後任者の意見の相違により『私たちのときはこんなふうにしたのに』みたいな事例もあって、むしろ、団体自身、活動自身が未完成で、だからこそ『皆さん参加して助けて欲しい』、『バージョンアップをさせて欲しい』という、団体側の心得が変わると新規参入があるのではと思います。

また提言していただいたことですが、何でも自由に発言してもらっても意見を全て潰していったら自由な意見は出ませんので、そういう意味では、団体側のマインドを変えていくというのが一つの大きなメッセージとしてあると思います。このカードゲームを通じて仲良くなり、相互の気づきによって問題解決につながるイメージを受けましたが、この場にどのように人を集めようと思われませんか。『楽しいことがある、ここにいったら何かがある』ということはイメージできますが、普通に市が『カードゲームをやりぜひ来てください』と広報しても、『何か怪しい、難しそう』という印象を持たれてしまう。結局参加してくれる方は、私が名前も顔も活動ぶりもよく知っている方たちで、本来の目的と違うということになるかと。今後、そのような開拓という点では、フックがかかった方々を積み上げるという意味で非常にいいと思います。

ここに興味を持たせるための議論というのは、どのような議論があったかぜひ教え

ていただきたいなと思います。

○委員

最初からその100%の解決策を出して問題提起をしようという議論はしていません。あくまで、最初はゼロ。もう20%ぐらいから、この地域の課題、また地域のやりたいことを皆で議論をして積立てていこうというふうに考えております。

○越田市長

実は昨年度、市民会議という無作為抽出でやった議論の中で、提案するだけでなく『自分たちでやろう』と、まちの宝物サポート隊というグループを作って、三ツ矢サイダー記念の周りを掃除しようとか、こんなこと出来ないかということで動き出していただきました。

『市民協働はこうあるべき』で、市が提案して要望して『してください』というのは、それは我々が目指すところではないと思っています。市民から提案をしてもらい、集会の場に我々も参加して発言させていただきました。『形になったものを産んだから後よろしく』と言われたら、変えるかどうかは『卵に任せよう』ということになるのですが、一緒に孵化していただいて、一緒に雛から鶏になるように、また新たに卵を生むようにお育ていただき、そのご協力をむしろいただきたいなと思います。

ちょうどその前段階でも、やはり協働プレーヤーを増やしていくことが、地域としての豊かさになってくると思いますので、両部会でそれぞれのチームになるのか、両部会別に進めたチームになるのか、そして、今後どのような活動を展開するのか、皆さんから具体的にご提案いただきたいと思いますので、事務局と協議を進めてください。

報酬については、実際に活動される時の足代になるぐらいの予算は、すでに計上しております。問題がなければ、3月議会で成立するはずですので、これから一緒に汗をかいていただきたいというのが、私の思いです。

○岩崎部長

はい、ありがとうございます。

来年度の話も含めて市長から色々と発言がありました。

協働のプレーヤーを増やしていくために、市民の皆さん一緒に『卵を孵化させて、雛から鶏にする』ことを続けたいというお話でした。この点について2年間を振り返りつつ、これからのことについてどなたかご意見ありませんか。

来年のことについては、市長から良いお話をいただきましたが、この際特にというのはございますでしょうか。

#### ○委員

場づくりの話についてですが、全く新しい人を引き込むために、キセラ公園の屋外でカードゲームをしました。屋外でそんなカード遊びというのはあるのかと思いましたが、やり始めたら全く新しい人たちや子どもたちも寄ってきました。

また、議論の中でモザイクのペDESTリアンデッキのスペースを使ってカードゲームをしたらどうか、市役所の1階のロビーでやるとか、屋外でコタツを出してカードゲームをやるとか、不特定多数の人たちがいるところでゲームする案が出まして、これはまさしく場づくりとかプレイスメーキングという手法であって、新しい人たちを巻き込んでいけると思います。

#### ○岩崎会長

場づくりの話ですが、何か補足の部分ありますか。

#### ○委員

何かこう楽しい雰囲気ではいかにも密室ではなくて、開かれた場所でやっていくことは大事だと思います。また、カードの白紙カードっていうものをつくりながら少し隙を作るということが大事かなとあと、核となるファシリテーターのグルーピングが必要であると思います。

○岩崎会長

はいありがとうございます。

お時間が超過をいたしておりますので、最後の締めに行きたいと思っています。皆さま方には2年間、集まっていただき様々な検討をしていただきました。そして、できましたらそれぞれのツールを生かしていただくような、皆さまには何らかの形で、今後も活躍をいただければと思うわけではありますが、最後に市長からご挨拶をいただきたいと思います。

### 3 市長あいさつ

○越田市長

はい。それでは改めまして今回ご提案をいただきました皆様、また取りまとめをいただきました岩崎会長、また藤本副会長、田中副会長をはじめ、委員の皆さんに心からお礼を申し上げます。

2年前ですね、この新たな審議会をどのように進めていこうかという議論をしたときに、既存のコミュニティの地域の皆さんも大切に、ただより広く新しいものにしていくためには、やはり公募の委員を増やしていこうと。特に新しい世代の若者枠を作って、若い世代が積極的に手を挙げて欲しいという気持ちでスタートをしました。我々自身、行政自身は出来ないことがある。私たちだけで答えは見つけれないし、私たちだけで全ての市民を幸せにすることは出来ない。だからこそ、出来ないということ素直に認めて、助けて欲しいということをお伝えをさせていただいて、その上で、我が街として我が事として、市民を幸せにしていくことがこれからの新しい民主主義の形だというふうに思っています。まだまだ課題というのは本当にありますけれども、今日皆さんの提案を聞いて、しかも私がお願いをする前に、むしろ要望としてプレーヤーになりたいと、一緒にやりたいと言っていたというのは、こんなにうれしいことはありませんので、ぜひ、令和3年度、一気に100点満点を目指すということではなくて、皆さんからいただいた提案を、せっかくこう大切に生まれたこの卵を、

しっかりと皆さんで温めていっていいものにしていきたいなと思います。私も、私たち職員全体で一緒に汗をかかせていただきたいと思いますのでどうかよろしくお願いいたします。

最後に、この2年間は皆さんにとって素晴らしい2年間だったんだなと想像しているのはですね、今まで様々なZoomの会議をしていきましたけど、Zoomの会議が和やかになるのはですね、人間関係があって信頼関係があると非常ににこやかな会議になるんですが、初めてZoom会議をすると、ある種、殺伐とした雰囲気にもなりかねない、本当に画面上だけの話で、ならば『メールで済ませたい』そんな場合もあったというのは私自身の経験でもあります。そういった意味でこの画面を通じて、皆様からの表情を見させていただいたら非常に温かい楽しそうなそういった雰囲気ということは、皆さんとの信頼関係ができ上がったその中での提案ではないかというふうに感じました。

今すぐに打ち上げをしようということは、市役所としてはOKを出せる状況にはありませんが、またコロナをこれ乗り越えた先に本当にこう向かい合って、この時楽しかったね、これが形になったねっていったそんな社会を皆さんと一緒に作っていきたいと思いますので、これからも是非お力をお貸してください。

本当にこの2年間お世話になりました。またこのすばらしい提案をいただいたこと、心から御礼を申し上げまして私からのご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございます。

○岩崎会長

はい、市長ありがとうございました。

いかがでしょうか。このあたりでこの第37回の川西市参画と協働のまちづくり推進会議もお開きしたいと思います。2年間、委員の皆様本当にありがとうございました。

そして、立派な提言、これからの活動のツールを作っていただいたそういう場に、私も参加させていただけたということをごくうれしく思います。では、こういう形で終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

#### 4 閉会